



〈研究〉ルーカス, パチオリノ稱呼ニ就テ

平井, 泰太郎

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 28(6):712-726

(Issue Date)

1920-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053197>



ルーカス、パチオリノ稱呼ニ就テ

神戸高等商業學校講師

商學士 平井泰太郎

一

余ハ嘗テ、シエクスピアー (Shakespeare) ノ綴字ガ幾通モアルトイフ事ヲ讀ンダ事ガアル。隴氣ナ記憶デアルカラ、ドコノ書ニアツタノカ、何通アルノカ、種類ト云フノモドシナ意味デ云フノカヲ明カニシナイ。然レ乍ラ、其要點ハ、此詩聖ノ氏名ノ綴字ガ各種アツテ一定シナカツタ言フ意味デアツタヤウニ思ハレル。

コレニ似タヤウナ事ハ其例ニ乏シクナイガ、複式簿記ノ最初ノ著書トシテ、世ニ傳ヘラル、「ズムト」 ("Summa de Arithmetica, Geometria, Proportioni et Proportionalita" (註一)) ノ著者ノ氏名モ未ダ一定シテ用ヒラレテキナイ。余ガ茲ニ一定シテ用ヒラレテキナイト云フ曖昧ナ言ヒ方ヲシタノハ事ノ事實其著デアル。著者ハ明カニ知ラレテキル。其人ノ傳説迄モ可成ノ程度ニ傳ヘラレテキル。ソレデキテ、氏名ガ明カニ知ラレテキナイ。知レテハキルガ一定シテ用ヒラレテキナイ。其綴字モ一定シテキナイ。尤モ、此人ヲ傳ヘル多クノ著者ガ一々吟味シテ、其稱呼ヲ用ヒタ理デモアルマイシ、ムシロ何等ノ疑ヲ抱カズニ自分ノ聞イタマ、讀ンダマ、ニ傳ヘタノデアラウトモ思ハレルカ

ラ、多クノ稱呼ニ一々格別ノ根據ガアルノデモアルマイガ、一應世人ノ注意ヲ促ガシタイト思フ。
其著者トハ、私ガ茲ニ假リニ「ルーカス、パチオリ」ト呼シダ所ノ人デアル。

註一 「ズムマ」トハ福田德三先生ガ改定經濟學研究（舊版坤七七八頁）ニ記サル、所ニ依ツタノデアル。全稱ハ、「Review on Arithmetic, Geometry, and Proportion」(J. B. Geijsbeek ニ依ル)ノ意デアル。Richard Brown 々「Everything about Arithmetic, etc.」ト稱シテ居ル。邦語全稱トシテハ東夷五郎先生ハ「算術、幾何及比例ニ關スル各論」又ハ「何モカモ」ト稱セラレ、(商業會計第一輯及第二輯) 商學士中村茂男氏ハ「各論」(商業簿記及會計一九頁)、鹿野教授ハ「算術、幾何及其他數理大全」(計理學提要上卷)、商學士太田哲三氏ハ「算術、幾何、及比例全書」ト記シ(會計學綱要)、中西新兵衛氏ハ「算術、幾何及比例ニ關スル汎論」(應用商事會計)ト呼ブ。

余ガ先ニ此書ノ邦語譯ヲ試ミタ際ニハ「算術、幾何及比例總攬」ト譯シテ置イタ。蓋シ、「大全」全書又ハ「總攬」ノ字ガ事實ニ近イデアラウ。

簿記ヲ説イタノハ、其第一部第九篇デアツテ「計算及記錄要論」(Particularis Computis et Scripturis)トノ標題デアル。
卷照 神戸會計學會編纂 會計學論叢 第四集所載 拙稿「ばちおり簿記書」研究

二

パチオリノ稱呼ニ就テハ、ガイスビーク氏(John B. Geijsbeek)ハ其ノ書「Ancient Double Entry Book-keeping, 1914」ノ中ニ特ニ What was Pacioli's Real Name? ト言フ一篇ヲ草シテ世ニ問フテキル。其考證ノ結果、同氏ハ「Lucus Pacioli」ヲ以テ正シトスル、トノ結論ヲ下シテ此稱呼ヲ主張シテキル。余ノ知ル範圍内ニ於テハ、此他ニ特別ニ此爲ニ發表セラレタル研究ヲ見ナイ。余ガ假リニ、コレニ從ツテ「ルーカス、パチオリ」ヲ採ツタ所以デアル。

元來、此著者ノ氏名ガ明ラカデナイト言フノハ、「ズムマ」ニ著者ガ自己ノ全氏名ヲ記シテ居ナイガ爲デアル、表紙ニモ、扉ニモ、其他ニモ正シクハ記シテキナイ。其書ノ中ニ於ケル自稱ヲ求ムレバ三ヶ所アル。一ツハ、原書第二頁二行目(G氏鰭刻書一九頁)ニハ「Frater lucas de burgo ト記シ、原書第三頁三行目(鰭刻書二〇頁)ニハ「Frateris Luce de Burgo トアル。更ニ原書第四頁第二節第三行ニハ「Frateris Luce de Burgo トナツテキル。

後ノ二ツニ於テ「Frateris Luce トナツテキルノハ第二格デアルガ爲デアル。從テ、此書ニ於ケル彼ノ自稱ハ「Frater Lucas de Burgo Sancti Sepulchriデアル。

Sancti Sepulchri ハ聖セバルクリ教區ノ謂デアル。伊太利北部アレツツオ州ニ屬シ、ヴェニス市ノ近傍デアル。併シテ著者**パチオリ**ガ生地デアリ、彼ガ後年僧正タリシ所デアル。

G氏ハ、コレヲ英譯シテ「Brother Lucas of the City of the Holy Sepulchre トシテキル。即チ此自稱ノ意味ハ、教區ノBrotherデアツタガ爲ニ過ギナイノデ、云ハハ、カンリツク教ノ一僧侶タル事ヲ示ス事ノ外他意ナキモノデアル。故ニ、コレヲ以テシテハ、何等氏名ヲ知ルノ縁トナリ得ナイ。後述スル如ク、彼著者ハ、往々Lucas de Burgo トシテ知ラレテキルガ、其由來スル所ハ茲ニ存スル(註一)。

「ズムマ」ハ一四九四年ニ出版セラレタルモノデアルガ、其絶版ニ歸シタル後ニ、此書ノ簿記篇(註ニ參照)ノミガ再版トシテ一五〇四年トスカナニ出版セラレタ。書名ハ「La Scuola perfetta dei Mercanti」ト言フ。版權ハ著者ニナカッタラシイガ著者ノ名ハ「Fra. Paciolo di Borgo Santo Se-

polero” トシテ現ハレテキル (註三)

尤モ一五〇九年彼ノ没スル少シ前ニ、彼ハ “Divina Proportione” ノ著書ガアル。此書ハ羅典語デ記サレテキルノデアルガ、コレニハ緒言ト所載ノ自分ノ信書トニ、署名シテ、 “Lucas Patiolus” トスル。(註四)

故ニ、コレニ依レバ、彼ノ羅典名ハ明カデアツテ、疑ヲ容ル、ノ必要ガナイ。羅典讀デ、**「ルーカス、パチオルス」**デアル事ニ就テハ**「ブラウン氏 (R. Brown) モ其會計學史ニカク記シテキル。**

(註五) 余ガ、前掲會計學論叢第四集七七頁ニ「此羅典名ハルーカス、パチオルスナリ」ト斷ジタル所以デアル。從テ、コレヲ用フルナラバ、其不都合ハ生ジナイノデアルガ、自國語タル伊太利語デハ果シテ何ト稱ブカガ問題トナル理デアル。

註一 A. H. Woolf; A Short History of Accountants and Accountancy, 1912, p. III.

註三 J. B. Geijsbeek; Ancient Double Entry Book-keeping, 1914, p. 8.

註四 同書同頁

註五 R. Brown; History of Accounting and Accountant, 1905, Ch. V. pp. 108.

東嶽五郎氏 商業會計第壹輯 第十五章一六七頁。

三

如斯、著者**ルーカス、パチオルス**ノ眞名ハ分明シナイ。茲ニ於テ、簿記ヲ説ク多クノ著書、**「ズムマ」**ヲ語ル多クノ著者ガ彼ヲ記載スル稱呼ト其綴字ノ使用ハ區々デアル。從テ、コレガ如何ニ記サ

ル、カラ涉獵スルハムシロ一ノ興味デアルト迄 G 氏ハ記シテキル。各著者ハ各々自説ヲ正シト主張シテ居ルガ、其各々ガ、皆マチマチデアアル。

ガイスピーク氏ハ、同書第二一頁ニ多クノ權威書カラ拾ヒ出シタ多クノ綴字ヲ記載シテキルガ、コレノミデモ十數種ニ上ツテキル。此實例ハ、此以外ノ書ニ就テモ、幾多ヲ指示スルコトヲ得ル。今茲ニ前掲著者ノ自稱ヲ除キ、各權威者ノ用フル綴字ヲ掲グレバ左ノ如クデアアル。

著者名(書名)

綴字

同時代ノ著者

Jan Ympyn Christoffels

Frere Lucas de Bargo Sancty Sepulchry

(但シ、彼ノ佛語書所載)

Guido Brandaglia

Luca Pacciolo

Ernst Ludwig Jäger

Lucas Paccioli

Carl Peter Khell

Fra Luca Paccioli di Borgo Sansepolcro

Beckman's History

Lucas von Borgo

Anderson's History

Lucas von Borgo

Clitofonte Bellini

Luca Paciolo

(Trattato Elementare Teorico—Pratico

di Ragionesia Generale)

V. Vianello

Luca Paciolo

(Luca Paciolo nella Storia
della Ragioneria)

Rawell Ciompa

Luca Paciolo

(Grundrissse einer Oekonomie)

L. Gomberg

Luca Paciolo

(Grundriss der

Verrechnungswissenschaft)

V. Gitti

Fra Luca Paciolo

(De Computo-modern)

Moritz Cantor

Paciolo

(Geschichte der Mathematik)

Sigismund Günther

Paciolo

(Geschichte der Mathematik)

Catholic Encyclopedia

Lucas Pacioli

Encyclopedia of Accounting

Lucas Pacioli

Richard Brown

Fra Luca Paciolo Da Borgo San Sepolchro

Henry Rand Hatfield

Luca Paciolo

John B. Geijsbeek

Lucas Pacioli

余ハ今、此以上ニ夥多ニ拾ヒ出スコトハ、大シタ意味ノナイコトト思ハレルカラ、其煩ヲ避ケテ、コレダケデ止メテ置カウ。只、余ノ狹キ見聞ヲ以テシテモ、類例ハ、更ニ此以外ニモ可成リニ多クヲ舉ゲ得ルコトヲ附言スレバ足ルデアラウ。

コレ等ノ各種ノ綴字ヲ一見スレバ、ワカルヤウニ、多クノ書物ノ内ニハモトヨリ類例モアリ、同ジ系統ニ屬スルト見ラル、モノハナイデハナイ。綴字ニ於テ、Cガニツアツタリ一ツアツタリスルヤウナノハ、先ヅ同一ト見テモヨイデアラウ。何トナレバ、語學者ニ質シタ所ニヨレバ、昔ハソナ黠ハサマデ重要視セズニ發音ヲ基トシテ記サレタモノ、ヤウデアルカラデアル。Cantorノ用フルPaciolo ト云フノモ、同ジ理由ニ依ツテ Paciolo ト同一デアルト見ルコトガ出來ヤウ。

Bargo, Borgo Burgo ハ皆同義デアル。只、Bargo ハ微カ稀デアラシイ。Erere ハ佛蘭西古語デアツテ、英語ノ Friar ニ當ル。Brother ノ語ノ有スル意味ト等シク僧侶ノ意デアル。Fra. ガコレニ對スル伊太利語デアル。da, de, di ハ殆ンド同義デアル。Beckman 等ニ於テ von ヲ用フルノハ獨乙讀デアルガ爲ニ過ギナイ。地名デハアルガ、Ympyn ノ綴字中 Sancy Sepulchery ハ微カ奇ナル用ヒ方ト考ヘラル、ヤウデアル。

要之、今假ニコレ等ノ綴字ヲ取捨シテ見ルト、大體ニ於テ三種ト見ルコトガデキル

即チ、一ハ、羅典綴タル、ルーカス、パチオルス (Lucas Pacioli) デアル。コレハ前述スル如

ク羅典語ヲ用ヒタル著書ニ於ケル著者自身ノ稱呼デアル。同時代ノ著者ノ用フル Lucas Paciolius ハコレト同一デアラウ。

第二ハ、**ガイスビーク氏**ノ以テ正シトスル**ルーカス、パチオリ** (Lucas Pacioli) デアル。獨ノ Jäger, Kheil 並ニ、**カソリツケ**大辭書 (Catholic Encyclopedia) 其他ノ探ル所デアル。會計學大辭書 (Encyclopedia of Accounting) モ亦コレヲ記シテキル。

第三ハ、會計學史ノ著者タル、**ブラウン氏** (R. Brown) 其他ノ多ク取レル、**ルカ、パチオリ** (Luca Paciolo) デアル。此綴字ハ、英米ニ於テモ、我國ニ於テモ、可成廣クニ用ヒラル、様デアル。モトヨリ、最初ニモ云フ通り、多クノ著者ハ、此種ノ綴字ニ就テハ格別ノ主張モナク、吟味モナク、ムシロ何等ノ疑ヲモ挾マナイデ、他書ニ倣ツテ用フルモノデアラウシ、且、普通ナラバ、ソレガ格別ノ不都合トモ云フベキデモアルマイカラ、從テ此種ノ決定ハ多數決ヲ以テ決スベキデハナイ。然シ乍ラ、兎ニ角、可成ニ廣ク、此種ノ綴字、即チ Luca Paciolo ガ用ヒラル、ニ拘ハラズ、**ガイスビーク氏**ハ、コレヲ排シテ「**ルーカス、パチオリ**」ニ從ツテキルガ、然ラバ、其理由ハ奈邊ニ存スルノデアラウカ、今試ミニ、氏ノ理由トスル所ヲ聞イテ見ヤウ。

四

ガイスビーク氏ガ、「ルーカス、パチオリ」ヲ探ル理由トスル所ハ二ツアル。

第一ハ、權威書ニ從ツタモノダト云フノデアル。即チ、彼ニ就テ記シタル二大研究者トシテ、獨

逸學者ノ Jager ト Kheil トヲ舉ゲ、此兩者ガ此綴字ヲ取ルガ故ニ正當ナリト信ゼントスルモノ、如ク
 デアル。即チ、前者ハ Lucas Pacioli ヲ取り、後者ハ Fra Luca Pacioli di Borgo Sansepolcro ヲ
 取ツテキル。G 氏ガ、此兩者ヲ取テ、何ガ故ニ Lucas Pacioli ノ斷定ニ達シタカハ、第二ノ理由ノ
 示スガ如クデアル。余ノ見ル所ヲ以テスレバ、獨逸書ニハ、此種ノ綴字ニ倣フ者ノ多イノデハナイ
 カトモ感ゼラル。

第二ハ、語源ヨリ來テキル。

即チ、**パチオリ**ガ自ラ其全氏名ヲ記シタノハ、前述スル如ク、“Divina Proportione”一冊ノミデ
 アルガ、コレニハ、羅典語デ Lucas Patiolus ト記名スル。

然ルニ、多クノ綴字ノ取ル“Luca”ト云フノハ、羅典語ノ“Lucas”ニ對スル伊太利語デアル。
 故ニ、此兩者ハ、孰レモ同ジ字デアルガ、コレニ就テハ**パチオリ**ガ“ズムマ”ニ、既ニ“Lucas”ト
 記シテキルガ故ニ、此方ヲ取ルト云フノデアル。

次ニ Patiolus ノ分析デアルガ、伊太利語ニ於テ“Lus”ハ、羅典化スレバ“lus”トナルト云フ。

故ニ、G 氏ハ其逆ヲ取テ(必ズシモ眞デナイカモ知レナイガ、ソレハ識者ノ教ヲ乞ハネバナラナイ)
 “lus”ハ“Lus”デアルトシテ、語尾ニ“us”ヲ取ル。ソレカラ、殆ンド總テノ場合ニ、羅典語
 ノ母音ニ挾マレタル“t”ハ伊太利古語ニ於テハ“c”トナルガ故ニ、羅典語ノ Patiolus ハ伊太利
 名デハ Pacioli デアル。故ニ、Lucas Patiolus ハ、伊太利古語ニ於テハ、Lucas Pacioli ナルベシト
 云フ意見ノヤウデアル。

更ニG氏ハ、コレト異ツタ綴字ノ使用者トシテ、Richrb Brownニ對シテ駁撃ヲ試ミテキル。——尤モ前述ノ如ク、此綴字ハ殆ンド多數トモ見ラル、ノデ、一般ノ此稱呼ヲ否認シヨウトスルモノトモ見ラル、ノデアルガ——即チ**ブラウン**氏ハ、其會計學史(前出)ニ於テハ、語尾ニ^ニ〇^ニヲ附シタル綴字ヲ取ツテ“Luca Paciolo”トシテキルノデアルガ、氏ガ^ニ〇^ニヲ取ツタ事ニ就テ何等ノ説明ヲモ與ヘナイノヲ遺憾トシ、且、同氏ガ引用シタル諸大家ガ語尾ニ^ニ〇^ニノ附イタ綴字ヲ採用スルニモ拘ハラズ、何ガ故ニコレニ從ハナカツタカト云ツテキル。

五

此、**ガイスビー**ク氏ノ所論ノ根據ガ正シイカ否カニ就テハ、余ハコレヲ批判スベキ十分ノ用意ヲ有シナイノデアルガ、市村帝大助教授等ニ質シタ所ニ依ルト、此根據ニモ多少ノ疑ノ存スルモノガナイデハナイ。

前段ノLucasニ就テ云ヘバ、G氏ノ説明ニ依テモ結局Lucaト同ジ事デアルシ、殊ニ中世ノ伊太利人ノ氏名ハ、ムシロ後者ノ方ガ普通ノヤウデモアル。例之、Luca della Robbia (Luca di Simone di Marco della Robbia)ノ如キデアル。G氏ハ、著者自身ガLucasヲ用フルト云フモ、ソレハ或ハ羅典風ニ書イタカトモ思ハレスデモナイ。即チ原書ノ自稱タルFratrie Luce de Burgoハ、羅典語デアルヤウデアル。尤モ人名ニハ、往々ニシテ理窟以外ノガアルシ、現在デモ、Lucasガアルサウデアルカラ一概ニハ言ヘナイ。

Pacioli = 就テ云ツテモ、羅典ノ“t”ガ“c”トナルノハ事實ダガ、“lus”ハ必ズシモ“li”トバカリデモナク、“lo”トモナリ得ルサウダカラ、コレモ一概ニPacioloヲ排斥シ難イカモ知レナイ。殊ニ、原著者ハ、其再版ニハPacioloノ綴字ヲモ取ルガ故ニ、此二ツノ代表的ノ稱呼ハ一ニシテニ非ズトモ言ヒ得ル。

從テ、絶對的ニLucas Pacioliデアツテ、Luca Paciolo 又ハ、時トシテ用ヒラルル、Luca Pacioli (註六)デハナイトハ云ヘナイ理デハアルガ、若シ、G氏ノ理由ニシテ正シトスレバ、此綴字ヲ格別ニ否認スベキ理由モナイ。殊ニG氏ガ特ニ此問題ニ就テ考證ヲ試ミタ結果ニ出デタル結論ナルガ故ニ、或ハ正シカラント信ジテ、暫クコレニ從ハウトスル者デアル。

註六 權威書デハナイカモ知レナイガ、倫敦ノHenry Sotheman & Co.ノ稀書目録(1919. No. 773)等ノ如キニハ、コレヲ用ヒテ井ル。

只、余ハ徒ラニ錯雜セル觀念ヲ殘存セシムルハ好マシクナイト思ツテキル。能フベクンバLuca Pacioloヲ採ル者ノ理由ヲモ聞イテ、事ノ闡明ヲ期スルハ、アナガチ無用ノ事デモアルマイ。

コレニ就テ余ハ更ニ一ツノ疑問ヲ持ツテキル。ウルフ氏(A. H. Woolf)モ其「會計學略史」ニ於テ、Luca Pacioloヲ取ツテキルガ、コレハ假リニ、ブラウン氏ト同系統デアルト見ルモ、最近ノ權威書タルケスター氏(Roy B. Kester)ガ其「會計學」(註七)ニ於テLuca Pacioloノ綴字ヲ取ツテキル事ニ就テデアル。同氏モ、何等ノ理由ヲ掲ゲタ理デハナイガ、只怪カシキハ、同氏ガ古代複式簿記ノ題下ニ、パチオリヲ紹介シ、然モ其好引用書トシテ本文中ニカイスピーク氏ノ書ヲ記シ乍ラ、

尙且、此綴字ヲ取ル事デアル。K氏ガ、ヨモヤG氏ヲ讀マナイト言フ事モアルマイガ、然ラバ、漫然ト習慣上此綴字ヲ取ツタカ、ソレトモ何等カノ反對意見ヲ有シテノ事デアルカハ、確カニ疑ヲ存シ、若クハ質問ヲ試ムル餘地ガアルト思ハレル。余ハ暫ク疑問ヲ存シ、コレヲ將來ニ徴シタイ。

註七 A. H. Woolf; A History of Accountants and Accountancy, 1912, p. iii.

R. J. B. Kester; Accounting, Theory and Practice, 1918 (5th Edit)—Vol. I, p. 6.

所詮、此問題ノ決定ハ、理窟ヤ推論ヤデハナイ、信スベキ古文書、古書籍等ニ從ツテ推斷スルノ外ハナイ。余ハ、會計學論叢第四集ニ「ズムマ」全譯ノ際ニハ、「ルーカス、バチオリ」ニ從ツタノデアルガ、此決定ノ爲ニハ、更ニ確實ナル、考證ヲ待チタイト思ハザルヲ得ナイ。此以上ノ研究ノ便宜ナキ余ニ取ツテハ隔靴搔痒ノ感ニ堪ヘナイ。記シテ以テ、語學者、史學者ノ垂示ヲ待チタイト思フ者デアル。

六

最後ニ、本邦著書ニ傳ヘラレタル**パチオリ**ノ稱呼ニ就テ附言スルモ、亦、無駄デハアルマイ。

本邦簿記及會計書ハ明治四年以來既ニ二百ニモ近イ。尤モ史論ヲ試ミタルモノハ寥々タルモノデハアルガ、此稱呼モ様々ニ傳ヘラレテキル。モトヨリ、前述セル諸外國以上ニ、未ダ看過セラレテキル問題ノ事トテ、各著者ガ格別ノ深イ意味モナク記サレテキル事トハ察シラレル。

本邦明治初期ノ著書ニシテ、最初ニ簿記法ノ起源ヲ説イタノヲ探ルニ、明治十二年九月版權免許、

土肥兼吉氏「簿記法獨案内」序文ニ岡千仞氏ノ筆デ、「簿記法、始於伊太理商弗克耳氏、實一千五百年間之事云々」トアルモ、果シテ、パチオリヲ指スヤ否ヤハ疑ハシイ。十九年七月海野力太郎氏「簿記學起源考」ニハ、リウカス、ジ、バル、コート記シ、(同書三、四頁)二十年十一月河村可三氏「新撰官用簿記學精理」緒言ニハ、ブルゴ氏ト記シ、同年十二月和田昌良氏「商用簿記學教科書(總論)ニハブレ、エー氏ト記シテキル。卅四年二月益野倍太郎氏「複式商業簿記法」ニハ、リウカス、ジ、バル、ゴ、ト稱スルモ(二三頁)、恐ラクハ海野氏ト同系デアラウ。

東夷五郎氏ハ、リユーカー、パシオロ (Luca Paciolo) ト稱シ、(註八) 又ハ、リユーカス、デウ、バルコ (Lucas de Burgo) 及、羅典名ヲ用ヒラルル (註九)。下野教授ハ、Lucas di Borgo (註十) ヲ用ヒ、又ハ、Luca Paciolo (註十一) ヲ用ヒラル、ヤウデアアル。福田博士及中村商學士ハ、ルツカ、パチヨロ (註十二) ト稱セラルル。鹿野教授ノ稱呼ハパシオロ (Luca Paciolo) デアリ、(註十三) 太田商學士ハ、リユーカー、パシオロ、(Lucas Paciolo) (註十四) ニ依ル。吉田教授ハ、ルーカス、パシオリ (Lucas Pacioli) ヲ用フルモ、(註十五) 且睦良氏ハ、ルーカス、パシオロヲ用ヒ、(註十六) 中西新兵衛氏ハ、Luca Paciolo ニ倣ヒ (註十七)、國松教授ハ、パチオロニ從フ (註十八) 更ニ、赤門ノ渡邊、上野兩博士ハ、最近ニ於テ、尙、Luca Paciolo ヲ用ヒラルル (註十九)。恐ラクハ、ケスター氏ニ對スルト同様ノ質議ヲ提出シ得ルト信ズル。

要之、本邦各著書ニ於テモ未ダ一定セル所ハナイ。強テ求ムレバ Brown 氏ト同ジク Luca Paciolo ヲ最多トスル。尤モ其音讀ハ、パチオロタルトパシオロタルトハ一定シナイ。コレハ、前者ガ正シ

イト思ハレル。此意味ニ於テ、余ガ前掲、會計學論叢第四集ニ「ルーカス、パチオリ」ヲ用ヒタハバ、計ラズモ本邦ニ於ケル、新稱呼デアツタ。從テ、余ハ敢テ此稱呼ヲ採リタル理由ヲ告グル責務ヲ感ズルト共ニ、先學諸氏ノ示教ト此稱呼ニ對スル注意トヲ願ヒタイト思フ。

本邦學界ニ會計學史論未ダ多カラザルノ今ニ於テ、此稱呼ヲ追究スルハ要用ノ事デアラウ。若シ此一篇ニ依テ何等カノ注意ヲ乞ヒ、稱呼ノ眞實ニ到達スルノ一助トナルヲ得バ、余輩ノ幸甚ノミデハ、アルマイ。

註八 商業會計第一輯一六七頁

註九 新案詳解商業簿記五八六頁

註十 會計第三卷二三九頁(第二號一一七頁)。日本會計學會創立壹週年記念講演。

註十一 東京高等商業學校專攻部講義

註十二 福田博士 改定經濟學研究坤卷七七八頁。

中村氏。商業簿記及會計一九頁

註十三 計理學提要上卷四頁

註十四 會計學綱要七頁

註十五 近世商業簿記五頁。但シ、此綴字ノ場合ニ於テハ、パチオリチ正シトスルデアラウ。(會計學論叢第四集七七頁註一參照)

註十六 會社會計論一頁

註十七 應用商事會計三二七頁。同氏ハ邦語讀チ「パチオロ」ト稱フ。「パチオロ」ノ方ガ正シイデアラウ。

因ニ、同氏ノ此箇所ニバチオリノ綴記書カ元帳ノミナル如ク記サルハ、誤謬ナリ。(前掲拙稿參照)

註十八 上野博士。國家學會雜誌第三拾三卷一六一四頁(第十二號一六頁)註十四。同氏ハ邦語讀チ「ルカ、パチオロ」トセラ

ル。(二六一頁)。

渡邊博士。同誌第三拾三卷一六一八頁(第十二號二十頁)尙、同氏ハ、日本會計學會第一週年紀念講演記錄ニ依レバ「パチヨロ」ト稱セラル、ガ如キモ、恐ラクハ「パチヨロ」ノ誤植ナルベキカ。(會計第三卷、二六〇頁(第二號一三八頁))

附記

最近^(大正九年一月)發行ノ商學士兒林百合松氏著商業會計ヲ披見スレバ、此著者ノ稱呼ヲパチオリト稱セラルル(同書三八頁)。引用書中ニG氏ノ前掲書が見ユルカラ、恐ラクハ、コレニ從ハレタルモノデアラウ。此一文未ダ世ノ識者ニ示サザルニ先ツテ、計ラズモ同ジ道連レヲ得タ理デアル。

(大正九年三月)